

平成 2 3 年度事務事業評価調書

平成 2 3 年度作成

平成 2 2 年度 実施事業	事務事業名 市民生涯学習推進講座（ときめき大学）
-------------------	---------------------------------

区分	番号	名称						
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち						
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる						
施策	1	市民の主体的な学習の推進						
小分類	1	生涯学習活動の促進						
主要な施策	1	ライフステージ（生涯学習各期）に対応した多様な学習機会の充実						
事務事業番号	001	<table border="1" style="font-size: small;"> <tr> <td style="background-color: #f8d7da;">事務事業コード</td> <td>51111001</td> <td style="background-color: #d4edda;">事業開始年度</td> <td>昭和 5 5 年度</td> <td style="background-color: #d4edda;">事業終了年度</td> <td>平成 - 年度</td> </tr> </table>	事務事業コード	51111001	事業開始年度	昭和 5 5 年度	事業終了年度	平成 - 年度
事務事業コード	51111001	事業開始年度	昭和 5 5 年度	事業終了年度	平成 - 年度			

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	市民生涯学習推進講座経費（ときめき大学）
------	------	------------	----------------------

部 名	教育部	グループ名	社会教育 G
-----	-----	-------	--------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

目的	<p style="background-color: #fff3cd;">（事務事業の実施目的を具体的に記載してください）</p> <p>生きがいのある人生観の確立と豊富な経験のもとに、多彩な能力を社会に活かすとともに、時代のニーズに応じた教養を身に付ける</p>
手段（事業の内容・活動）	<p style="background-color: #fff3cd;">（目的を達成するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載してください）</p> <p>1 年生～ 4 年生の 4 学年制とし、卒業した者が継続して受講する場合は、聴講生とする。</p> <p>教養コース ・今日的課題、社会事情、生活向上、充実等についての学習会 専修課程コース（グループ学習会） ・新聞グループ ・ハーモニカグループ ・せんべいやきグループ ・すこやか（レクリエーション）グループ ・フラダンスグループ ・わらべ歌グループ 選択コース（希望者が選択コースへ参加） ・くらしの賢者コース（生活・文化） ・のぼりべつ物知りコース、（郷土・歴史・文化） ・はつらつ元気コース（健康）</p>
成果	<p style="background-color: #fff3cd;">（事務事業の実施成果を具体的に記載してください）</p> <p>講座に参加することで現代的な知識を身につけるとともに、学生間の親睦を深めることで「学ぶ」ことへの意欲が深まる。</p>
根拠法令等	<p style="background-color: #fff3cd;">（事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください）</p> <p>登別ときめき大学設置要綱</p>

指標の推移

区 分		単位	区分	22年度 実績	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	受講者数（年間）	人	目標値	1,500	0	0	0	0
			実績値	1,178				
	学習回数（年間）	回	目標値	22	0	0	0	0
			実績値	22				

事業費の推移

区 分		単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度
事業の 財源内訳	国庫支出金 名称	千円						0
	道支出金 名称	千円						0
	地方債 名称	千円						0
	その他 名称	千円	517	0	0	0	0	0
	一般財源 名称	千円	1,005	0	0	0	0	0
合 計			1,522	0	0	0	0	0
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費		職 員	千円	3,850	0			
		嘱 託 員	千円	0	0			
		臨時職員	千円	0	0			
		合 計	千円	3,850	0			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 平成23年度から新たに「登別ときめき大学」をスタートさせており、当初は市が主体となってやるべきだが、受講者自らが積極的に運営委員会に関わることでできる形をつくり、将来的には市ではなく受講者が中心となって実施していくのが望ましい。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 生涯学習の観点に立ち、生きがいのある人生観を確立するため、時代に応じた知識と教養を身につけ、親睦を図り、学習機会を得ることにより、多彩な能力を地域社会に貢献しているため、事業実施による効果は表れている。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 今後に向けての事業のあり方を考慮し、多様化している市民の学習機会の要望を反映できるよう、新たな取組みを検討することにより、成果が向上するよう努める。 また、講座実施の周知などの外部への発信できる講座を作っていく必要がある。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 参加者が減少していることに伴い、バスの運用方法の見直しや、事業の実施方法などから削減することはできる。

担当グループによる評価

終 了	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	平成23年度からは新たに「登別ときめき大学」をスタートさせることで、これまでの事務局の一括管理の形から受講者の自主管理による形へと変化させる。また、将来的には行政主体の形から受講者自身が組織する運営委員会主体の形へ変化させる。
------------	----------------------	---

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

終 了	備考
------------	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力で推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）